

わが社の事故防止対策

品質向上へ多様な切り口

川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)では、年間スケジュールに基づく研修やQC(品質管理)小集団活動、KYT(危険予知トレーニング)、燃費コンテストなど多様な切り口から安全・品質向上策を推進している。4月からは改善提案制度も導入。それぞれの活動が相乗効果を発揮し、重複や漏れがないよう、社内コミュニケーション強化に意識的に取り組む。ことしの重点テーマは、

川崎陸送

効率性より安全に比重

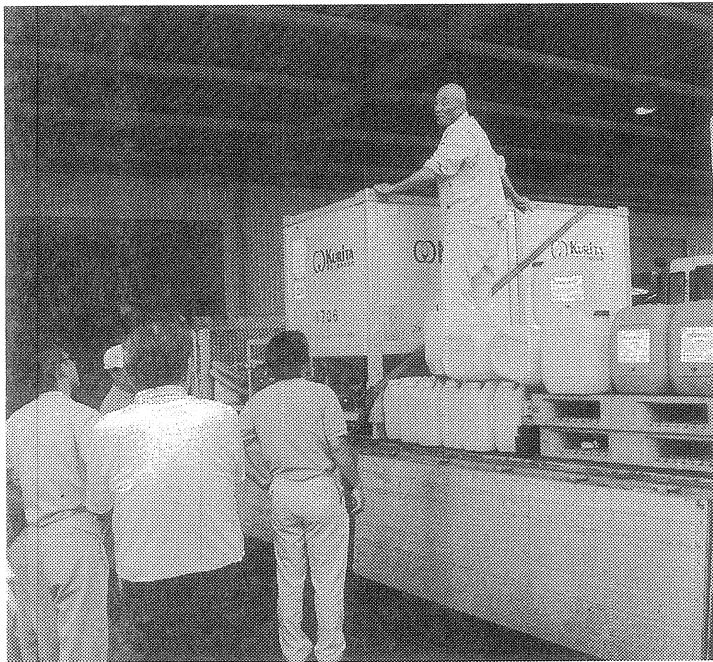
工場や配達先など施設内で起きる細かい事故の撲滅。「低速でコツンとぶつける程度の事故」もゼロにするため、「KYプロジェクト(PJ)」を発足。ドライバーへのヒアリングを通じ、事故やヒヤリ・ハット事例を徹底調査。要望や提案も取り入れ、現場と乖離(かいり)しない、実行性のあつた統一ルールを策定する。具体的には、禁止すべき行為や注意事項をピックアップし、PJメンバーが文章だけでなく、ビデオ画像や漫画などビジュアルも活用し、ドライバーに直面指

導を行う。「指導」は同時に、「どついたら事故を防げるか」「どんなルールであれば守れるか」「ルールを守るにはどのようなツール、支援策が必要か」現場からの意見を吸い上げるのも狙いだ。

ドライバーの「本音」を引き出せれば、実行性の高い対策が打てる。全社的にコミュニケーションの活性化に努めてきたこともあり、ドライバーが安全作業に必要なラッシングベルトの長さについて指摘したり、エコードライブ中に乗用車からあおりを受けないよう、トラック後方にステッカーを張り「たい」など要望が出されるようになった。

なお、事故防止活動を進める中で、「ドライバーは、『会社のために』とつい頑張ってしまうことが多かった」と樋口(樋口由人取締役)。25年間無事故・無違反(ドライバーを含む)ドライバーを「鉄人」として表彰するなど、効率性よりも安全、コンプライアンス(法令順守)を重要な価値とする会社の考え方を、いかに根強く浸透させるか、模索している。

(石井 麻里)



ドライバーへのヒアリングを通じ、事故やヒヤリ・ハット事例を徹底調査